

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
水谷 史男			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-150802-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

当初からテーマは、東日本大震災の被災地での当事者へのインタビュー調査と決めてあったが、実際にどこで調査を実施するかは、学生たちにまず被災地の実態を各種の記録やデータを読んで問題を明確にしたうえで、いくつかの被災地に予備調査にでかけ、最終的に宮城県南三陸町の歌津地区に決定した。学生たちは全員が現地を回り、インタビューでも熱心に話を聞き、記録した。問題が大災害の被災当事者から直接聞いたことで、それぞれ大きな感銘を受けた経験となった。時期的にも震災後4年半、仮設が整理される直前とタイムリーだった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

東日本大震災の津波被災地避難住民の現状と課題

2. 調査の内容／概要：

2011年3月の東日本大震災の被災地のひとつである宮城県南三陸町歌津地区を対象に仮設住宅住民へのインタビューを行い、津波被害と震災後の生活を調査した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

南三陸町で最大規模の仮設住宅である「平成の森」仮設に2015年9月時点で入居している被災者の方々のうち、面接インタビューに応じてくださった32名が対象となった。年齢・性別はさまざまだが、高齢者が多い。

4. 主な調査項目：

インタビューにおけるおもな共通項目として、1) 震災津波襲来当時の状況、2) その後の避難生活での経験、3) 家族を含めた現在の生活状況、4) 今後の生活展望と課題、の4点に絞って話を聞き、とくに住宅再建の問題を焦点として面接聴き取りを行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

現地で自治会の協力を仰ぎ、仮設住宅を各戸訪問し、インタビューに応じてくれた方々の発言を、了解の上で録音して、後日テープから文字に起こし、これをもとに整理と分析を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

南三陸町歌津でのインタビューは、2015年9月1日～3日の期間、履修学生15名が調査員となって実施した。また、6月に調査地選定のための予備調査を、福島県田村市と宮城県南三陸町、女川町などを手分けして訪問している。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

最終的に、インタビュー記録を録音できた32名の記録は、長短さまざまであったが、いずれも大震災の被災当事者の発言として貴重なものが多く含まれている。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

インタビュー記録を丁寧に作成するのに時間をかけたが、報告書作成に当たっては項目ごとに分担して全員で検討しつつ、なるべく発言をそのままに採用することで、有意義な分析がなされたと思う。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

大震災、とくに津波で家や家族を失うという深刻な経験を、今から振り返ることで、いくつか解決すべき問題が浮かび上がった。とくに、漁業を中核としていた地域なので、仕事の再建と住宅をどうするかが、目下の重要課題であり、仮設の整理統合を控えてそれぞれが直面する困難も知ることができた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.32』2016年3月発行。